

平成29年度の全会計を慎重審査。賛成多数（反対1）で認定！ 一般会計（歳出）は172億円超え。2年連続で過去最大予算に。

会計別区分 (単位：万円)	歳入決算額 (前年比)	歳出決算額 (前年比)
一般会計	188億6007万円 (+15億9724万円)	172億2321万円 (+24億3154万円)
国民健康保険	22億7003万円 (+1億5458万円)	21億7751万円 (+1億5935万円)
簡易水道	3億5892万円 (+1487万円)	2億6540万円 (-1760万円)
農業集落排水	2841万円 (-660万円)	2757万円 (-733万円)
生活排水処理事業	9953万円 (-3698万円)	9559万円 (-3572万円)
介護保険	16億1407万円 (+1億7874万円)	15億3367万円 (+1億6321万円)
住宅新築資金	161万円 (-75万円)	128万円 (-131万円)
後期高齢者医療	1億3973万円 (+1668万円)	1億2955万円 (+1628万円)
上水道事業	4448万円 (-7683万円)	2880万円 (-8177万円)

例年9月議会は、前年度予算の決算審査が行われる為、「決算議会」とも呼ばれる。平成29年度一般会計（歳入）は総額で、188億6007万円となり、昨年度を凌ぐ過去最大予算に。そのうち歳出は総額で172億を超えた。災害復旧費は前年度に比べ6割程度に縮小し、災害復旧の進展が窺える。村税収入は回復傾向にあるものの、歳入の76%は国や県からの依存財源に頼っており、災害復興と財政再建を同時並行に進める必要がある。

【監査委員意見書抜粋】

代表監査委員 長野 文吉
議選監査委員 工藤 保雄



代表監査委員
長野 文吉氏

- ・行政事務については、厳しい財政状況の中でも震災関連も含め計画された事業が適切に執行され、次年度に引き継がれていることと、財政収支の均衡保持に留意し、無駄を省き経費節減に努め、超高齢社会が進む中で各分野へのきめ細やかな施策が着実に執行されていることは高く評価に値する。
- ・当該年度において、合併以来の懸案事項であった新庁舎が完成した。これまでの3庁舎で分散していた事務が、各課各係、横の連携を密に行い効率的執行が可能になり、住民サービスも向上したと思われる。
- ・今後財政が厳しくなると予想されるが、震災復旧・復興関連による交付金、補助金等を有効に活用し、地域の復興と超高齢社会に対応できる足腰の強い環境基盤づくりを期待する。

付託案件は、文教厚生、総務、経済建設の3常任委員会で、厳正かつ慎重に審査。

各委員会で、予算の執行状況やその効果等を確認審査。併せて、次年度につなぐ積極的な政策提言もなされた。(◎が委員長、○が副委員長)

文教厚生常任委員会 (9/7)

◎橋本 功 ○工藤保雄
荒牧俊一 太田吉浩 栃原辰郎

健康推進課	教育委員会	住民福祉課
保育所	環境対策課	次世代定住課

(委員長報告)

障害児通所給付金の急激な伸びの要因検証、村設置型生活排水事業の採算性と今後の在り方、中学校部活動のグラウンド確保は充分か、スクールバスの利活用など活発な議論と積極的な提言を行った。

表決結果 / 全員一致で、
認定するものと決定

総務常任委員会 (9/10)

◎太田吉浩 ○丸野健一郎
山室昭憲 立石武博 今村輝宏

総務課	税務課	政策企画課
産業観光課	復興推進課	会計課
議会事務局		

(委員長報告)

観光客の回復具合とその対策効果、きらめく地域づくり支援事業の予算規模の妥当性を議論。中期財政計画の説明を受け、経常経費の見直しや有利起債の活用等、財政健全化への提言を行った。

表決結果 / 賛成多数（反対1）で、
認定するものと決定

経済建設常任委員会 (9/11)

◎桐原純男 ○笠野眞喜
後藤征昭 今村竜喜

農政課	建設課	
-----	-----	--

(委員長報告)

そば乾燥調整施設の進捗、経営体育成支援事業の震災対応分の成果説明を受けた。土地改良区統合や乙ヶ瀬地区圃場整備の進捗への質問が上がった。適切な村道の維持管理を要望。災害復旧事業や工事等は、概ね順調に進んでいる事を確認した。

表決結果 / 全員一致で、
認定するものと決定